

アイディアの宝船

『みんなの日本語初級』で教える工夫

Ja-Net 季刊ジャネット No.19 別冊

- 「ゲーム」新しい授業の編集に向けて…………… 1
- 各課「読解問題」を活用する…………… 2
- 『みんなの日本語初級II 漢字英語版』発行にあたって…… 4

2001年10月25日発行

スリーエーネットワーク

「ゲーム」新しい授業の編集に向けて

東京外国語大学国際教育プログラム (ISEPTUFS) 助教授 荒川洋平

1.制作の経緯

外国語教育におけるアクティビティは、現実の接触場面を自然な形で教室に持ち込み、学習者に使わせるもの、という通念があります。でもこれって、本当にそうでしょうか？

たとえば初級の授業でする「道案内」のアクティビティを考えてみましょう。手書きの地図があって、「二番目の角」や「信号」が描いてある、あれですね。けれど、あんな見方で地図を見て道を教える、そんな接触場面って、どのくらいあるのでしょうか。地図そのものが俯瞰的とはいえ、何か違和感がないでしょうか。

この違和感の理由は、二つあります。一つはこれがおそらく、TESOL（英語教授法）からの応用だと言うことです。町並みが整然としている西洋の市街地でならともかく、路地や抜け道が交錯する日本の町では、この運用練習はあまり現実的ではないでしょう。もう一つの理由は、このアクティビティが「現実を虚構化すること」にこだわりすぎるということです。教科書の俯瞰図のイラストでアクティビティを終え、あとは学習者の接触場面を待つ、という流れから、もう一步、踏み出して考えてみましょう。そこで必要なのは「虚構を現実化する」という視点です。僕は認知言語学を専門とする傍ら、短期の留学生たちに初級から上級までの日本語を教えています。ここで紹介するのは、往来発着の動詞の非過去形をマスターした辺りの学習者のために作った教室活動です。

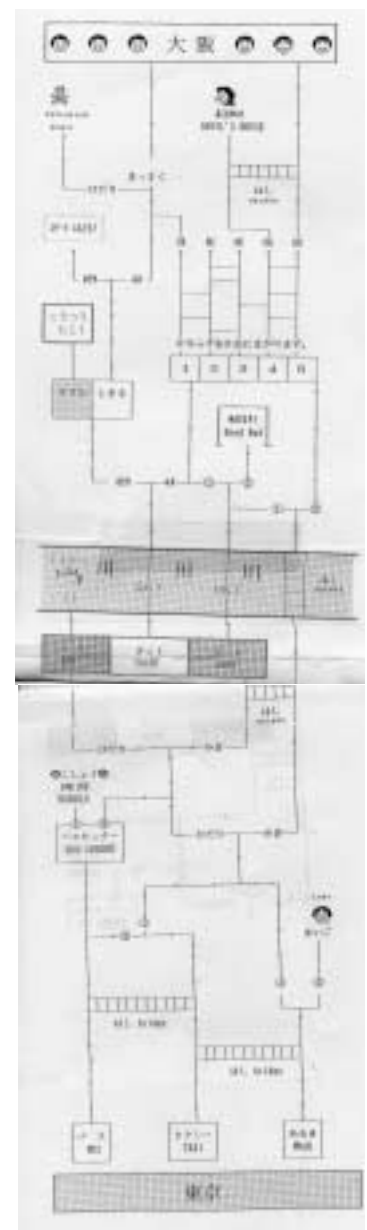
2.使用方法

これは、教師と学習者、あるいは学習者どうしのペアワークで「スタート（東京）」から「ゴール（大阪）」に向かって進むゲームです。アクティビティに慣れていない学習者の場合は、はじめに教師対クラスでおこなうとよいでしょう。問いかける方は紙を巻き、「スタート」から「ゴール」に向けて少しずつ示しながら

- 橋を渡りますか。
 - 右へ行きますか？それとも左へ行きますか。
 - バスで行きますか、それとも電車で行きますか。
- といった質問を相手にします。

答える方は自分の答えに運命を託し、紙の上を少しずつ進みます。もちろん行く先には、イラストにあるように多くの障害が待ち受けています。答える方が失敗した時点で「スタート」からやり直しとするか、または役割を変えるかします。最初に「ゴール」に行き着いた学習者を勝ちとします。

僕は教科書『みんなの日本語初級I』第6課の終了時に、インドネシア、カナダ、ラオスの学生5名のクラスでこれを使いました。「橋を渡る」「それとも」といった未習の表現、語句を使うことを心配する方もいらっしゃるでしょうが、楽しいアクティビティの場



↑
スタート

合、学生たちはそれを用いることにたいへん貪欲です。ここまでの基本文型をマスターしている学習者なら、前段階での語彙導入はほとんど必要ありません。ご自身が持つクラスの状況を見きわめて決定してください。

3.補足

このゲームは単純な構造なので、皆さんの教育環境に応じていくらかでも編集が可能です。表現や語句で難易度を変えることはもちろん、「スタート」「ゴール」の名称も変えられます。空間としての行き先を、時間の進行に写像させれば、いわゆる「人生ゲーム」に見立てることも可能です（失敗のたびにまた赤ちゃんからやり直しでは大変ですけどね）。

この活動の元ネタは、小学校のとき、雨の日に教室で遊んでいたゲームからです。明日の授業が心配な方でも授業は1日きりのこと、それまでにご自身が生きてきた何千日かを振り返れば、新しい授業を作るヒントはいくらでも見えてきます。ただ、ゲームの作り手としてひとつ付け加えると、教材の編集は、教師に対して授業という動的な構造の編集もまた要求するものです。新しい教材が「合わない」と感じるとき、それは授業の流れが可変的ではない、という思いこみから生じています。新しい授業の成功は、しばしば教材と教授法の相互作用によって生まれるものです。

各課「読解問題」を活用する

NPO法人 ICAS国際都市仙台を支える市民の会

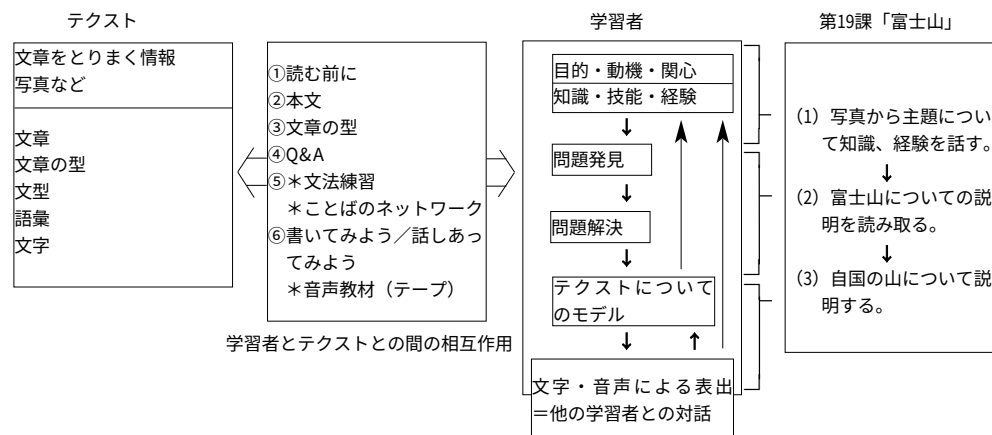
『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』の各課の終わりには、その課を総合的に復習するための「問題」があり、特に最終の1問は、読解力を養成する練習となっています。説明文や解説文、日記文、表などいろいろな形式の「文章」を読んで内容と設問の適否を判断する問題ですが、私たちはこの文章を利用して、次のような2つの取り組みをしました。

1つは、『みんなの日本語初級Ⅰ』を終了した学習者が次のステップへの移行がスムーズにいくように、『みんなの日本語初級Ⅱ』の学習と併行して、「読む」ことに慣れることを目的にこの「文章」を使用し、授業を組み立てました。各課とも中級教科書『日本語中級J301』にならい6つの部分で構成しました。今回は、第19課を例としてご紹介したいと思います。

もう1つは、日本語の自然な発音を身に付けることを目的に行った取り組みです。個々の語の発音、1つの文の発音だけではなく、リズム・アクセント・プロミネンスをまとまった文を読むことから、練習しようとするものです。

なお、これらの取り組みに際しては各課読解問題の文の朗読テープを作成、使用しました。

[取り組み1] 『日本語中級J301』の教科書の方針をこの取り組みに重ね図示すると次のようになります。



①読む前に

- この山を知っていますか。⇒富士山の写真・葛飾北斎の浮世絵の富士山
- 富士山について先生や友達に聞いてみましょう。⇒質問をペアで考え、教師や他のペアに訊ねる。

しつもん	こたえ
例) 富士山を みたことが ありますか。	
1)	
2)	
3)	

- 浮世絵についてウェブサイトのアドレスを知らせる。

②本文（テープ用意）

③文章の型：空いているところに適当な語句をいれましょう。（註一実際の授業の際は学習者シートにはふりがなをつけた）

を 見たことが ありますか。

高さ： メートル

で いちばん （ ）山です。

県と 県の間にあります。

冬： て、（ ）く になります。

夏：山の上に が あります。

月と 月 だけ のぼることが できます。

山の上に が あります。

⇒ をだしたり、

をかけることができます。

、富士山は 赤く になります。

↓

とても（ ）です。

↓

日本人は たり、 たりします。

葛飾北斎の の は 有名です。

④Q&A：テキストの正誤問題を使用

⑤Grammar Notes：『翻訳・文法解説』を使用

文法練習：『標準問題集』を使用

ことばのネットワーク：漢字学習を主に語彙の拡大をねらったタスクシートを用意。

季節・方角・色の語彙

⑥書いてみよう：i. あなたの国のいちばん高い山について、次の表に書きこんでください。

あなたの国で いちばん高い山は 何という山ですか。	
その山の 高さは 何メートルですか。	
その山は どこにありますか。	
その山は どんな かたち ですか。	
あなたの国の人は、よく その山へ のぼったり、写真を撮ったり、絵を描いたりしますか。	

ii. 本文をみて「私の国の高い山○○」という作文を書いてみましょう。

話し合ってみよう：i. あなたの国の いちばん高い山について、話してください。

ii. 友人の国の いちばん高い山について、聞いてみましょう。

* * *

iii. 写真で撮った富士山と、葛飾北斎が描いた富士山とどちらがいいですか。

それは、なぜですか。

[取り組み2] 実施時間：週5回、5分／1課

対象：『みんなの日本語初級II』を学習中の南米出身の技術研修員2名

実施手順：月曜日から金曜日までを一区切りとし、1つの問題文を次の手順で練習しました。各曜日の実施の流れとその目的は次のとおりです。（L：学習者 T：教師）

月曜日	テープを聞く（Lなりに注意する点を本文に記入）⇒テープと一緒に音読（スピード・ポーズ・リズム・イントネーション・アクセント・プロミネンスの模倣）⇒Tと一緒に音読（確認しながらの練習）⇒個別に音読⇒Tが個々にコメントする⇒うまくいかない点をLと一緒に確認
火曜日	テープを聞く（前日のチェックポイントを確認）⇒テープと一緒に音読（改良しながら読む）⇒Tと一緒に音読（確認しながらの練習）⇒個別に音読⇒Tが個々にコメントする⇒うまくいかない点をLと一緒に確認
水曜日	テープを聞く（前日のチェックポイントを確認）⇒テープと一緒に音読⇒Tと一緒に音読（確認しながらの練習）⇒個別に音読⇒Tが個々にコメントする⇒うまくいかない点をLと一緒に確認⇒内容を話す（内容が理解されているか、また内容を再構築できるか確認）
木曜日	シャドーイング（視覚的な助けを排除して耳から、スピード・ポーズ・リズム・イントネーション・アクセント・プロミネンスなどの日本語らしさを総合的にキャッチし、再現してみる）
金曜日	個別練習⇒テープ吹き込み⇒確認

効果：一回あたりの練習時間は5分なのですが、学習者自らがテープを意識して聞き、模倣して音声にしていく過程を経験することにより、それまで気づかなかった日本語の発音の特徴や、自らの発音の弱点、くせに気づき、自然な発音に近づけることができました。また、水曜日の時点で、要点をスムーズに話すことができました。これは、音読練習を続けるうちに、内容の理解も進み、言語化の準備ができていたためではないかと思われます。

『みんなの日本語初級Ⅱ 漢字英語版』発行にあたって

大阪大学留学生センター 教授 西口光一

『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字英語版』（以下『初級Ⅰ漢字』）とその続編『初級Ⅱ 漢字英語版』（以下『初級Ⅱ漢字』）に提出されている漢字の数についてのお問合せをよくいただきます。監修者の西口光一先生からお送りいただいた資料をご紹介します。

(Ja-Net編集室)

学習漢字と学習漢字語の数について

『初級Ⅰ漢字』では、220字の漢字を勉強しました。その内訳は、日本語能力試験の3級漢字201字、2級漢字19字となっています。

『初級Ⅰ漢字』で学習した漢字：220字	
3級漢字：201字	2級漢字：19字

参考までに『初級Ⅰ漢字』で学習した2級漢字は以下の19字です（数字は『初級Ⅰ英語版』提出番号）。

晩⁴⁰、好⁷⁸、達¹⁰²、酒¹⁰⁴、暗¹³⁴、短¹³⁹、軽¹⁴²、便¹⁴⁴、利¹⁴⁵、鉄¹⁵²、京¹⁵⁹、降¹⁶⁷、寝¹⁶⁹、乗¹⁹⁹、内²⁰¹、奥²⁰⁵、部²¹⁰、窓²¹³、閉²¹⁵

『初級Ⅱ漢字』では297字の漢字、及び422字の漢字語を学習項目として選びました。

その学習漢字と学習漢字語は次のような要領で選びました。

- 『初級Ⅰ漢字』で学習しなかった3級漢字（44字）を学習漢字とする。
※「洋」は3級漢字であるが、教科書では1度も使用されていない。「洋」を学習漢字とするため、「洋服」という語彙を学習漢字語として、追加的に選んだ。ちなみに「洋服」は日本語能力試験4級の語彙である。
- 教科書で学習する語彙の中で、日本語能力試験2級漢字（1,000字）で書くことができる漢字語を選び、リストを作成する。つまり、1級漢字が必要な漢字語（謝る、成功する、など）は除いた。
- 同リストから、2級漢字の組み合わせでできている熟語（都合、必要な、簡単な、専門、掃除する、結婚する、など）を除外する。ただし、『初級Ⅰ漢字』で学習した2級漢字（19字）が含まれる場合は、除外しない。また、適切な言葉の使用の観点から、同リストから「床屋」を除く。
- 同リストの漢字語を書き表すために必要な漢字を学習漢字とする。
- 3.で除外した2級漢字の組み合わせでできている熟語を再度検討し、その中で4で選ばれた漢字が含まれている場合は、その漢字語をリストに復活する。例えば、「合う」「必ず」が4で学習漢字で選ばれたので、「都合」「必要な」はそれらを一方に含む熟語となり、その結果、学習漢字語として復活する。そしてこの場合、「都」や「要」も同時に学習漢字となる。

このような手順により、297字の学習漢字と422の学習漢字語が選ばれました。

『初級Ⅱ漢字』で学習する漢字：297字	
残りの3級の漢字：44字	2級漢字：253字

『初級Ⅰ漢字』で学習した220字と本書で学習する297字を合わせると、517字となり、この2冊の漢字学習書で日本語能力試験2級漢字1,000字の半分以上を学習することになります。（『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字英語版』についてはJa-Net13号に掲載—編集室註）

小社の日本語教材を楽しく活用してくださっているお話をよく聞きます。今回は、『みんなの日本語初級』で教える時の楽しい「アイデア」を2つご紹介いたしました。小社の教材を使った皆様のいろいろな「試み」をJa-Net編集室までお寄せください。

Ja-Net 季刊ジャネット No.19 別冊

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2001年10月25日発行

●発行人 小川 巖

●発行所 (株)スリーエーネットワーク

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル

Ja-Net編集室 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6197

営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195

http://www.3anet.co.jp E-mail: ja-net@3anet.co.jp

日本印刷(株)

●印刷

© 2001 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)